

いま!この一冊!

いっさつ



『ちいさなおじさんとおおきな犬』

文/バール・ロー・リント・グレン 絵/エグ・エリクソン

訳/菱木晃子

あすなろ書房

E/リ

いちねんせい
1年生~

あるところに、ひとりぼっちのちいさなおじさんがいました。

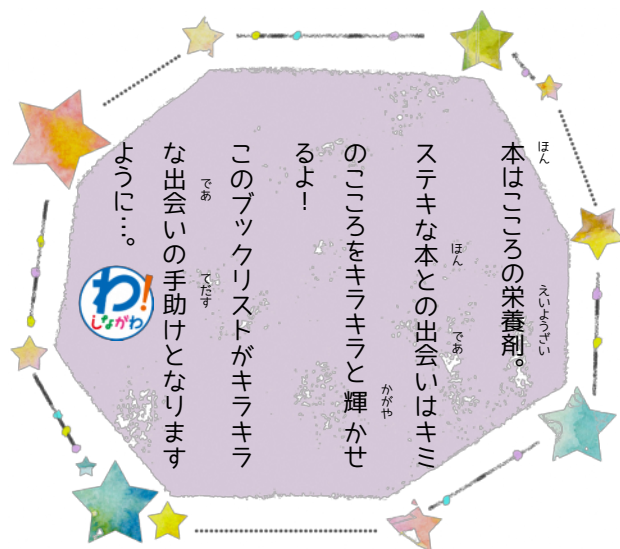
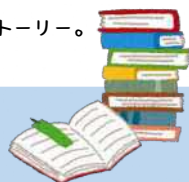
おじさんはみんなに親切にしたいのに、いじわるばかりされてしまいます。おじさんは、さみしくて泣いてばかりいました。そこで、春のある日、おじさんは「友だち募集中」の貼り紙をすることにしました。すると、やってきたのはおおきな犬。おおきな犬は、おじさんを見あげ、頭をおじさんの肩にもたせかけました。それからふたりはすっかり仲良くなりました。一緒にごはんを食べ、一緒に寝室で眠りました。

ちいさなおじさんもおおきな犬も、友だちができて幸せでした。ふたりは毎日楽しく暮らしていました。

季節が変わり、ちいさなおじさんの家に、可愛い女の子が訪ねてきました。女の子が、おおきな犬を抱きしめると、おおきな犬もからだをふるわせて喜びました。それをみたおじさんは、さみしさで胸がいたみ……。

ひとりぼっちでさみしそうだったちいさなおじさんの表情が、最後のページでは!?

スウェーデンからやってきた心あたまるストーリー。



としょかん
図書館おすすめブックリスト



キラ
キミのところに☆めきを☆

しょうがくせい
小学生



まち
『街どろぼう』

著/junaida

福音館書店

E/リ

いちねんせい
1年生~

遠い国の大きな山のてっぺんに、巨人がひとりで暮らしていました。巨人は家族も友だちもなくて、さびしくて仕方なくなりました。そこで、山のふもととの街におりていき、一軒の家をこっそり持ち帰ってきました。しかし、その家の人たちに、さびしいので親せきの家も持ってきてほしいと頼まれて……。

どれだけたくさんの人に囲まれてもさみしさが消えるわけじゃない。大切なのは、心が通じ合うこと。

さみしがりの巨人がたった一人の友だちを見つけるまでの小さな物語。

ねんはるごう
2022年春号

編集・発行：五反田図書館

1・2ねんせい～

『石ころのスープ トルコのおはなし』 光村教育 図書

文/デヴィス・マリカ・リバーマン E/リ
 絵/ビョウ・オザタリ 訳/こだまともこ

けちんぼうばかりが住んでいるけちけち村。この村の人たちはだれにも食べものをわけあたえませんでした。あるとき、けちけち村にひとりの旅人がやってきました。旅人は石ころだけでつくるおいしいスープをごちそうしようといいますが…。

みんなで分かちあう 幸せに気づかされるトルコのおはなし。

『うさぎのマリーのフルーツパーラー まいごのこねこ』

作/小手鞠るい 絵/永田順 講談社 93/コ

ここは、うさぎのマリーさんのフルーツパーラー。たぬきのタントンくん、きつねのネネちゃん、こぐまのジローくんはマリーさんのフルーツパフェがだいすき。ある嵐の夜、まいごのこねこがマリーさんのところに助けをもとめてやってきました。嵐がおさまった次の日、みんなでこねこを送っていくと、そこはねこだけが住んでいるというふしぎな村で…。

『おしろのばん人とガレスピー』 大日本図書

文/ハツジャミン・ILヤン 絵/ジェームズ・ド・バルティ 93/I
 訳/小宮由

世界一の誰よりも目がいいという三兄弟をお城の番人にした王さま。王さまは、番人をだませたものには、ダイヤモンドのついた金メダルを贈るといふ。メダルをもらおうと、たくさんの人たちがあれさきにお城へおしかけたが、誰一人として番人たちをだませるものはいない。そこへかしこいガレスピーという男の子がやってきて、番人たちにたたかいていどむ！

ガレスピーは番人たちをだますことができるのか？

3・4ねんせい～

『りりかさんのぬいぐるみ診療所 空色のルリエル』 講談社

作/かのゆうこ 絵/北見葉胡 93/カ

りりかさんはぬいぐるみが大好き。でもぬいぐるみはかわいがればかわいがるほど、ぼろぼろになってしまいます。そこでりりかさんは大人になって「りりかぬいぐるみ診療所」をひらきました。りりかさんはどんなにぼろぼろになったぬいぐるみも元気な姿になおしてしまいます。なので、診療所にやってくる患者さんはあとをたちません。そんな腕のいいりりかさんには、じつは誰も知らないひみつがあって…。

『サイコーの通知表』 講談社

著/工藤純子 93/フ

小学4年生の朝陽は通知表がきらい。同級生の大河と叶希も、先生から一方的にわたされる通知表に疑問を感じていた。朝陽のお父さんの会社では、部下が上司の成績をつけることもあるときいて、朝陽たちも、担任の先生の通知表をつけてみることに！はじめて通知表をつける立場になった朝陽たちは、誰かを評価するむずかしさに気づきはじめて…。

心にのこる言葉がたくさんみつかるサイコーの一冊！

『三年一組、春野先生！ 三週間だけのミラクルティーチャー』 講談社

作/くすのぎしげのり 絵/下平一すけ 93/フ

事故で来られなくなった担任の先生の代わりに、三週間だけぼくのクラスにやってきた春野先生。明るく元気な春野先生は「よい子の石」をはじめるという。いいことをしたりされたりしたら、どんどん石がたまっていっきまりらしい。得意なことにもないぼくは、「よい子の石」なんてきつと集まらないし、きょうみもない。

そう思っていたけど、いつもあるくはげましてくれる春野先生といると、なんだか自信がわいてきて…。

5・6ねんせい～

『天の台所』 講談社

著/落合由佳 93/オ

去年の冬、おいしいごはんを作ってくれていたばあちゃんが亡くなった。ばあちゃんがいなくなり、小学生の天と、その家族の食生活はボロボロに。そんな時、ひょうなことから、近所で口うるさいと評判の「がみババ」から料理を習うことになった天。がみババに怒られてばかりの天だったが、家族のためにつくる料理がだんだん楽しくなってきた…。

卵さえず上手にわねなかった天が、どんどん料理の腕をあげていく！

『あしたへの翼』 汐文社

著/中島信子 93/ナ

理事は小学6年生の女の子。平凡だけどそれなりにシアワセな毎日を送っていた。しかし、ある日おばあちゃんが引越してきてから生活が一変した。おばあちゃんが認知症になったのだ。それをきっかけに家族はバラバラになり、理事がひとりでおばあちゃんの面倒をみることに！理事の普通じゃない毎日は、いつまで続くのだろうか…？

現在、問題となっているヤングケアラーを扱った作品。

『ビター・ステップ』 ポプラ社

作/高田由紀子 絵/おとないあき 93/フ

小5の夏休みの終わり、あかりの家にばあちゃんやってきた。明るくかっこよかったはずのばあちゃん、脳梗塞の後遺症で別人のようになっていた。平和だったあかりの家は、おばあちゃんがきてから振り回されてばかり。おばあちゃんのがままだ、病気の後遺症だと分かってはいても、なかなか受け入れられないあかり。しかし、同じような経験をした友だちの助けや、前向きに生きようとするおばあちゃんの気持ちの変化に気づき、少しずつ変わっていく…。